

令和4年度 信濃川水系(信濃川上流)流域治水協議会全体協議会 (令和5年1月30日)

～千曲川・犀川流域における流域治水について、市町村長等と意見交換～



○千曲川流域における流域治水の更なる推進、またその全体像を共有・検討する場として、流域内の市町村長等が参加し、流域治水の目標設定に向けた意見交換を始める。

○信濃川水系の上下流域の交流を目的とした「千曲川流域治水サミット」と併せて開催し、千曲川流域の**31市町村長**が現地又はwebにて参加(現地:23名、web:8名)。

- 日 時 = 令和5年1月30日(月) 15:40~16:30
- 開催方法 = 長野市生涯学習センター・WEB会議での開催
- 事務局 = 国土交通省 千曲川河川事務所・長野県 河川課
- 現地参加数 = 25市町村(市町村長=23名、代理=2名)
- web参加数 = 16市町村(市町村長=8名、代理=8名)

<次第>

1. 開会

挨拶:長野県建設部長 田中 衛

2. 議事

- ①信濃川水系(信濃川上流)流域治水協議会規約改正について
- ②流域治水の目標設定に向けた現状考察
- ③流域治水の本格的実践『継続と深化』
- ④質疑応答・意見交換

3. 閉会

<構成機関>

長野市、松本市、上田市、須坂市、小諸市、中野市、大町市、飯山市、塩尻市、佐久市、千曲市、東御市、安曇野市、小海町、佐久穂町、川上村、南牧村、南相木村、北相木村、軽井沢町、御代田町、立科町、長和町、青木村、麻績村、生坂村、山形村、朝日村、筑北村、池田町、松川村、坂城町、小布施町、高山村、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、信濃町、飯綱町、小川村、栄村、長野地方気象台、関東農政局農村振興部、中部森林管理局北信森林管理署、中部森林管理局中信森林管理署、中部森林管理局東信森林管理署、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林整備センター長野水源林整備事務所、国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所、国土交通省北陸地方整備局(大町ダム管理所、湯沢砂防事務所、松本砂防事務所、千曲川河川事務所)、長野県(環境部生活排水課、農政部農地整備課、林務部森林づくり推進課、建設部河川課、建設部砂防課、建設部都市・まちづくり課、建設部建築住宅課、佐久建設事務所、上田建設事務所、松本建設事務所、安曇野建設事務所、大町建設事務所、千曲建設事務所、須坂建設事務所、長野建設事務所、北信建設事務所)

<オブザーバー>

信州大学工学部水環境・土木工学科 吉谷純一教授、豊田政史准教授、NHK長野放送局、信越放送(株)、(株)長野放送、(株)テレビ信州、長野朝日放送(株)

長野県建設部長 挨拶



田中建設部長

- 「信濃川水系(信濃川上流)流域治水協議会全体協議会」は、千曲川流域における「流域治水」の全体像を共有する場として、1年前に設置
- 昨年の全体協議会での意見、「上下流での交流」を踏まえて、今回「千曲川流域治水サミット」を同日開催
- 第2回の協議会については、「雨水貯留を進めていくためには、数値目標を設定することが必要ではないか」とのご意見を踏まえ、「流域治水の目標設定に向けた現状考察」の検討状況を千曲川河川事務所より報告
- 「流域治水の本格的実践『継続と深化』」の取組状況を国、県の関係機関より報告

主な意見交換の内容



青木村北村村長

「緑のダム」という言葉があるとおり、森林の持つ保水能力に着目してはどうか。



南相木村中島村村長

上流域の自治体として出来ることは、なるべくやりたいと考えている。貯留タンクなどは設置費用が高く、補助金を付けても住民まで取組が浸透しないことが課題。



小川村染野村村長

昨年8月の豪雨では降水時間3~4時間の間に160~170mmという局地的な豪雨となり、これまで経験したこのない、災害が発生し、豪雨災害の激甚化、頻発化している。

学識者からの意見



信州大学 吉谷教授

大学としても流域治水に協力できるような体制づくりができないかと模索している。犀川流域には、貯留施設が多くあるが、千曲川流域には、水を貯められる施設はわずかしかない。事前放流の取組も、犀川では大きな効果を発揮するが、千曲川本川では厳しい状況。千曲川本川は貯留施設が非常に少ないなかで、信濃川水系河川整備計画の変更では、千曲川本川(杭瀬下)での計画流量を増加し、治水安全度を向上する計画になっており、どのように実行していくのか非常に難しい大きな課題と認識している。



信州大学 豊田准教授

流域治水というと新しいことをしないとイケないと考えてしまうが、これまで各市町村、国、県が取り組んできたことも流域治水の取組であると思う。大河川を対象とする、あるいは、地先を対象とするということで取組も変わってくると思うので、どこを守りたいかを考えながら取組を進めていただければと思う。

全体協議会のまとめ

- 全体協議会や流域治水のキャラバン等を通じて市町村にも情報共有するとともに一緒になって取組を推進
- 千曲川本川、あるいは犀川の降雨特性を含めた地域特性、あるいは施策の特徴や効果などを踏まえて、流域治水の全体像、数値目標をしっかりと見据えながら、ハード対策・ソフト対策の事前防災対策を加速させる
- 国・県・自治体だけでなく住民や民間事業者などを含めたそれぞれのプレイヤー、実施主体が責任感を持って、できる取組から流域一体となって流域治水の取組を推進することが重要



開催状況(会場)